

6	4	3
1	(表紙)	「先祖より持伝書類之内目録 大谷九之右衛門」
2	(白紙)	
3	①	竹嶋渡海御免被 仰出之御奉書写シ 壺通
②	③	松平右衛門大夫様より被下候御状 二通
④	⑤	秋元撰津守様より御口上書 二通
⑥	⑦	加藤佐渡守様より右御同様 一通
⑧	⑨	阿倍四郎五郎様より先祖之者へ 被下候御状数拾通之内 五通
⑩	⑪	御同人様 ^江 酒井讃岐守様より 被進候御状 壺通
⑫	⑬	御同人様より松浦河内守様へ 被進候御状 壺通
⑭	⑮	阿倍忠右衛門様より被下御状 一通
⑯	⑰	大久保和泉守様より被下御状 三通
⑱	⑲	公方様 ^江 御目見之節 御次第書 壺通
⑳	㉑	御公儀より御尋之筋 殿様より蒙仰候御書付 壺通

- 一 荒尾但馬様より米子御小仕置
御三人^江之御状
壱通
- ②①○ 一 荒尾内匠様より御小仕置御兩人^江
之御状
壱通
- 4 ②②○ 一 津田監物様より之御状
壱通
- ②③②④ 一 安養寺猪之助様より同
式通
- ②⑤ 一 山崎主馬様より同
壱通
- ②⑥ 一 蓮花寺五郎八様より同
壱通
- ②⑦ 一 長谷川正悦様より同
壱通
- ②⑧○ 元禄九年子正月
一 竹嶋渡海御制禁被
仰出候御奉書写シ
壱通
- ②⑨○ 同年七月
一 魚鳥口錢取被仰付候節
荒尾近江様より米子御小仕置
益田村井御両所^江之御書附
壱通
- ③⑩○ 一 上野従
宮様より大谷九右衛門家之義
殿様^江御頼被為下候節御宿坊
護法院^江万里小路民部様より
之御状
壱通
- ③⑪○ 一 御坊官万里小路民部様より
被下候御状
壱通
- ③⑫○ 一 御太守様より
壱通

宮様江御頼之趣被為遊
御承知候旨御口上之趣
御書付ヲ以御差上之御紙面 壱通

5

③③ 一 大西淡路守様より被下候御手紙 壱通

③④ 一 〇 万里小路治部様より同 壱通

③⑤ 宮様御言葉被為添候段 壱通

③⑥ ③⑦ ③⑧ ③⑨ 一 殿様御目見日仰付候節 壱通

河村彦十郎様蓮花寺五郎八様より
之御手紙 四通

④⑩ ④⑪ ④⑫ 一 〇 御在国之節年頭 三通

④③ 一 御時服拝領之節

荒尾志摩様より被下御状 壱通

④④ ④⑦ ④⑧ 安永五申二月

一 〇 四代前九右衛門勝起義
近江様^江御直附申上候^ニ付閉門被

仰付尚又無筋之御願等申上候段為御呵
隱居忤政太郎^江家統被仰付候節之

御書付 壱通

④⑤ ④⑨ 一 〇 政太郎江家督相続日仰付并
魚鳥口錢歩割御書附共 二通

④⑥ 〇 天明五午三月

一 同人義御両国灘筋干鰯口錢取
奉願上候得共御聞届難被仰付依之以前
三步口錢取之所此度^壱歩御増被下以上
四步^ニ被仰付旨御書付 壱通

一 ⑤〇

右政太郎義ハ三代已前九右衛門と申者ニ

6

御座候^而御用船相勤候所度々風災

ニ付御米代等不埒仕候^ニ付年々上納銀

結構御取立被仰付候得共段々不仕合続

ニ^而尚又不納仕奉掛御役介候所同人義

相果享和元年酉二月忤藤之丞へ家続

被仰付候節四歩口錢取之内^而尅歩半御減少

ニ^而右之上納年々尅貫五百目宛之分

近江様より御取作廻被仰付旨御書付

尅通

一 ⑤①

右藤之丞と申者親新九郎幼名ニ

御座候、同人義文化三年寅十二月右上納

銀最早差別^{ニ茂}至可申^与奉存折柄

尅歩半数年来之御減少^{ニ而}及難洪候

ニ付、先代之通四歩^ニ為願返シ致出府

嘆願仕候处、其砌御俟約御年限中^ニ付

願之通難被仰付、尤尅歩半替^{ニシテ}

御銀貳貫目宛年々被下置追^而

家録ハ御返シ可被仰付旨御書付 尅通

一 ⑤②

一 天明年中以来御両国灘筋干鰯

見改之義奉願候得共重願之儀難被

仰付、依^而坪上山より西出津干鰯改

上守役可被仰付旨深浦御役手付

文政二年卯十一月左之通蒙仰候得共

新九郎義病氣^ニ付御断申上候

右御書付

尅通

以上五拾貳通

⑤③

前記奉申上候通親新九郎代口錢

貳歩半并尅歩半替り年々御銀貳貫目

宛頂戴仕来候所四拾三年前亥五月相果候

7

ニ付私へ家統被仰付候節、先代之通り
口錢取等其儘^与被仰付候得共其頃ハ魚
鳥座新九郎^江諸事御任^{ニ而}相勤被在候
得共、同人死後私義ハ若年ニ付所詮難相勤
何角嘆願仕候処翌月より御直作廻被
仰付尚御時節柄奉恐察、右年々式貫目
宛之分五七年之間差上度奉願四拾余年
差上候義ハ私之寸切^{ニ茂}御立被下何卒
先規之通口錢四歩ニ被仰付候様嘆願
仕居候義御座候

㊦

一 四拾三年前亥六月十八日より御一手御直
作廻ニ相成候前日迄之魚壳懸ケ銀
七拾貫目計私方より出銀在之候所御返しニハ
不相成及難渋候得共兎角御時節柄奉
恐察差控罷在候義ニ御座候

㊦

一 魚壳捌場之儀往昔ハ下問屋共
店先或ハ四辻^{ニ而}市ヲ立候所数百人寄
集候事故雪中又ハ雨天杯ニハ別^而
混雜仕候ニ付五拾二年以前當時之魚座
建立之所締合も相立候ニ付御直作廻
之節御借入之御沙汰ニ付建具畳ニ
至迄其俣御用立候所追々相当之御宿
料可被為下旨御内意承居候得共是等
之儀不奉掛御配意成丈修覆相加へ
御用ニ相立申度奉存候

㊦

一 正徳五未年四代前九右衛門へ魚鳥
問屋被仰付問屋名代之手代ヲ問屋と
致し御用向相勤候旧例ヲ改九年已然
酉十二月悴善右衛門へ問屋被仰付相勤
申上候

8
(白紙)